



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY

新潟大学 工学部技術部の紹介

新潟大学工学部 技術部

技術長 高橋 百寿

数字で見る新潟大学（新潟大学HPより）



工学部は長岡高等工業学校創設から**100周年**



五十嵐キャンパス

五十嵐キャンパスは8学部、3つの大学院、附属図書館などがあり、面積は約60万㎡（東京ドーム約13個分）もある広大なキャンパス。緑に囲まれ、建物上層階からは日本海や佐渡島を望むことができます。



旭町キャンパス

旭町キャンパスは、医学部、歯学部、2つの大学院、脳研究所、医歯学総合病院などを擁する新潟大学の医歯学系の教育・研究そして医療の拠点です。

学部・大学院・別科学生数 : 12,112人

教職員数（役員含む） : 3,270人

教室系技術職員数 : 95人

※2022年5月1日 現在



★**教育学部**
(教育実践学研究科)

人文学部

法学部

経済科学部

(現代社会文化研究科)

創生学部



★**医学部**

★**歯学部**

★**工学部**

★**農学部**

★**理学部**

(医歯学総合研究科)
(保険学研究科)

(自然科学研究科)

総合大学ならではの10の学部と5研究科

- ★ 医歯学総合病院 ★ 脳研究所 ★ 災害・復興科学研究所
附属図書館 アジア連携研究センター
- ★ 佐渡自然共生科学センター 日本酒学センター
経営戦略本部 危機管理本部 未来ビジョン実現本部
- ★ 保健管理・環境安全本部（環境安全推進センター）
教育基盤機構 大学院教育支援機構
- ★ 研究推進機構（共用設備基盤センター） 地域創生推進機構
- ★ DX推進機構（情報基盤センター） 学術資料運営機構
附属学校園 ★ 農学部附属フィールド教育研究センター
- ★ 工学部附属工学力教育センター 駅南キャンパスときめいと
東京事務所 施設管理部 あゆみ保育園 宿泊施設

付属施設（病院・研究所・各種センターほか）

工学部技術部の主な担当職場



工学部は工学科の1学科ですが
 1年生で5つの分野に分かれ
 2年生で9つのプログラムに

技術職員は
 9つのプログラムに3-6名
 工学力教育センターに2名
 創造工房に3名
 環境安全推進センターに1名

工学部技術部職員 : 36名

工学力教育センターの活動

ロボットを作ったり、フォーミュラカーを作ったり、研究したり、発表したり、留学生とともに国際的な問題解決にチャレンジしたり

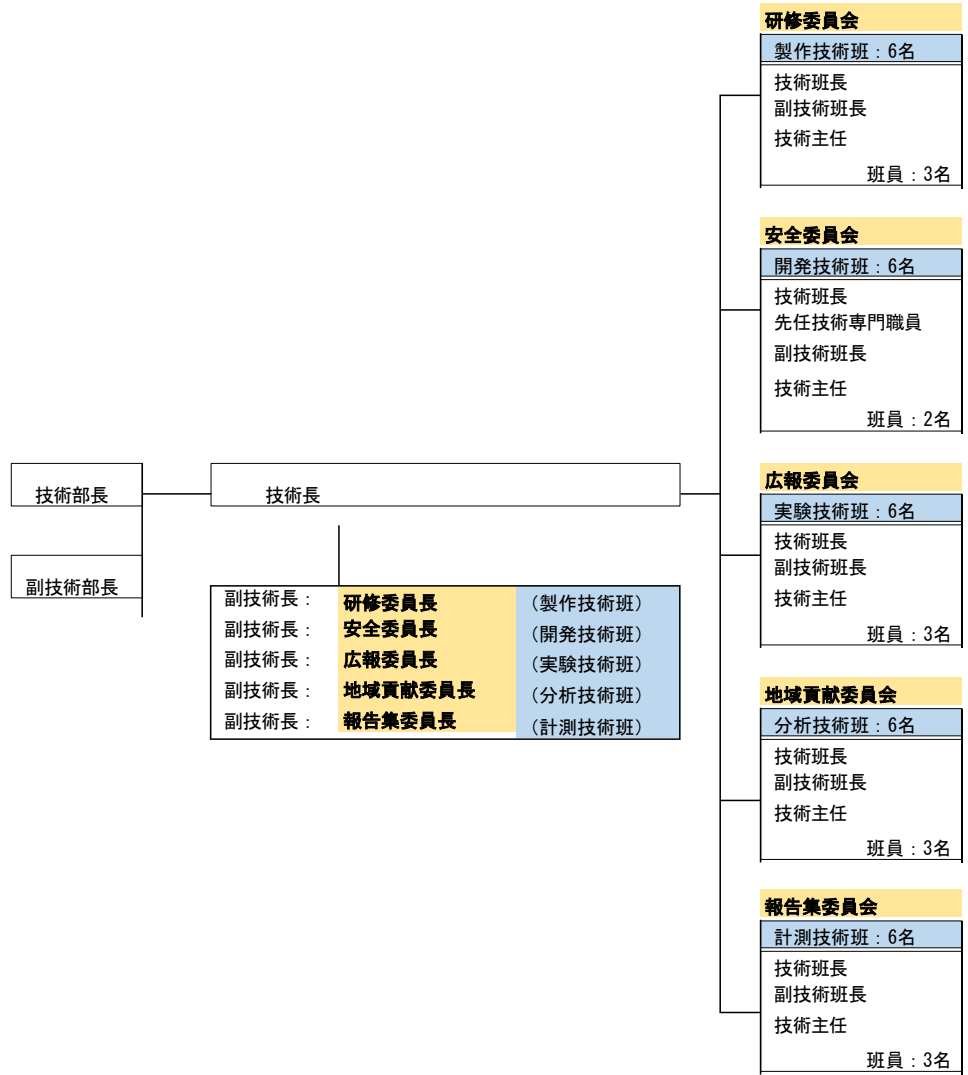


現在の工学部技術部組織（2017年-現在）

工学部における技術職員の組織化は1992年に国大協モデルでの組織化が実施され、その後、2004年9月に「試行」という形で5技術分野からなる技術部組織に再編、2017年4月から現在の組織としてスタート

- ・ **大学から認められる組織に** ⇒ 職名を内規に合わせたライン制へ
⇒ 技術長, 副技術長, 班長, 副班長, 主任, 班員 で構成 1つの班は平均6名
 - ・ **専門分野を限定しない班名に**
⇒ 製作技術 / 開発技術 / 実験技術 / 分析技術 / 計測技術
 - ・ **組織図（班員構成）は技術長が提案する** ⇒ 技術部委員会で承認
⇒ 昇格人事を考慮し全体のバランスを見ながら班の異動も必要に応じて提案する
 - ・ **委員会活動はローテーションで担当する** ⇒ 5班で1年毎、5年間で全員が経験
⇒ 研修 → 安全 → 広報 → 地域貢献 → 報告集 → 研修 . . .
 - ・ **評価制度の定着** ⇒ 目標設定シートと1年間の活動状況一覧
目標設定シートの自己評価と評価者のコメントと採点
年2回の面談 自己研鑽やイベント参加の積極性など
-

工学部技術部組織図(R5. 4. 1～)



委員会及び各班の業務内容

技術部研修の企画・立案・実施
新潟大学教室系技術職員研修における技術発表者の募集

教育・研究用各種装置等の設計・開発
電子回路設計、建築構造設計、機械設計、
機器開発、システム開発等

学部内の安全巡視、ヒヤリハットの事例収集

教育・研究における各種実験・測定
機械実験、科学実験、物理実験、電気実験、
土木実験等

小中学生の工学部見学への対応、ホームページの運用

教育・研究における各種分析
機器分析、情報分析等

夏休み工作教室の企画・立案・実施
学内外からのイベント要請への対応

教育・研究における各種計測
環境測定、電子計測、強度試験、CAE解析等

技術部報告集の企画・立案・編集・作成

教育・研究用各種装置等の設計・製作
機械加工、電子回路制作等

技術部各種委員会

委員会の委員長は副技術長が務め、班の構成員を各委員会の構成員とする
技術部に報告集委員会、研修委員会、安全委員会、広報委員会、地域貢献委員会を置き、上記の技術部業務を行う。

班が担当する委員会は次のローテーションに従い1年単位で交代する。
安全委員会⇒広報委員会⇒地域貢献委員会⇒報告集委員会⇒研修委員会、

現在の課題（工学部技術部）

- ・ **定員削減** ⇒ 3名は削減予定だが、増員希望との調整も必要
- ・ **業務の集中** ⇒ 勤務地による仕事量の差をどう分散・調整していくか
- ・ **班での技術的な活動** ⇒ 今年度技術は情報共有を検討中
- ・ **評価の見える化** ⇒ 表彰制度の新設など検討が必要 給与に反映は難題
- ・ **命令系統** ⇒ 実働(勤務場所)と所属(工学部技術部の2トラック)
⇒ 特定の教員のための職員という意識がまだ残る勤務場所がある
- ・ **勤務場所の異動希望** ⇒ 希望は出せるが担当教員との調整が必要
- ・ **全学技術部との兼ね合い** ⇒ 現状の2トラックから3トラックへ

勤務場所を超えた交流は根付き、**全学の組織化に大きな違和感はない**

総合技術部への進行状況

- ・ 2021年秋から準備・検討
- ・ 2022年は**希望者**で6グループを構成
組織や運用方法など、各班で担当し提案⇒新組織案で合意
※技術職員有志のMLの設置（情報共有）
- ・ 2023年は**希望者**で新組織案に沿った組織を運営し詳細を検討予定
業務依頼の方法・グループ長や室長の選考方法・評価制度など

総合技術部の課題

- ・ **待遇改善**の実現（昇任・昇格のスピードアップ・ポストや枠の増加）
 - ・ **意識や危機感の解消**（特定の教員のための職員・人員削減・職場の増加）
 - ・ **全員参加**が理想 ⇒ トップダウンも必要
 - ・ **評価制度**の検討 ⇒ 何を誰に評価して欲しい のすり合わせ
-